

シジュウカラ

3月の陽はあたたかい。冬の間積った雪をどんどんとかしてしまふ。雪の下から土が顔をだすと、春が来たなと思うが、森の小鳥たちは、われわれ以上に春に敏感である。

2月も下旬になると、日は次第に長くなり始める。それと同時に、それまであまり鳴き声もださず、木の枝から枝へと餌をあさっていた小鳥たちが、いっせいに歌いはじめるのである。なかでも目立つのは、「ツピー、ツピー、ツピー」というシジュウカラの歌である。

シジュウカラは、森林の小鳥としては、もっともポピュラーで、冬には庭先にもよく姿をみせる。黒い帽子に見事なひげ、グリーンの背広に黒ネクタイ、なかなかの紳士である。

シジュウカラのくちばしは、スズメと比べると細い。これは、動物質、とくに昆虫を食べるのに適している。夏の間は木の葉についている虫を食べ、秋になって木の葉が落ちると、地上で枯葉についている小さな虫などを食べている。そして冬になると、木の枝で越冬している虫や卵をさがして食べる。シジュウカラはかわいい姿や歌でわれわれを楽しませてくれるだけではなく、害虫を食べるということでもわれわれに役立っている。

(昆虫野兎鼠科 藤巻裕蔵)

